

第2次真庭市図書館みらい計画

(真庭市図書館基本計画・真庭市子ども読書活動推進計画)

「応え (response)」あうなかで、「答え (answer)」が生まれてくる場に

2026年3月

真庭市教育委員会



はじめに

いま、私たちのまわりでは「人口が減っている」「少子化だ」という言葉をよく耳にします。数字だけを見ると、どこか寂しく、閉塞感を感じてしまうかもしれません。しかし、本当に大切なことは何でしょうか。

本来、地域というものは「どこかに最初からある箱」ではなく、そこに人が集まり、顔を合わせ、言葉を交わすことで、あとから生まれてくるものだとは私たちは考えます。人が多いか少ないかという数字以上に大切なのは、私たちがここでどう過ごし、誰と出会い、どんな未来を一緒に描こうとしているか、という「営み」そのものなのではないでしょうか。

かつて、この地域には「寄り合い」の文化がありました。みんなで集まって知恵を出し合い、お茶を飲みながら語り合い、自分たちの暮らしを自分たちでつくっていく。そこには、お金や物だけでは測れない、確かな「豊かさ」がありました。

昔がよかったと言っているのではありません。いまの私たちが、いまの感覚で、自分たちの暮らしを自分たちの手で面白くしていく。誰かに決められた豊かさを「買う」のではなく、対話を通じて、新しい豊かさを自分たちで「創り出す」。

図書館は、そんな「たくらみ」が始まる「拠点」でありたいと願っています。

誰もが「自由」に立ち寄り、未知の知識に出会い、自分とは違う考えを持つ誰かと対話し、共に「学ぶ」。その自由な空気の中で生まれる出会いや、一緒に何かを築き上げていく。このプロセスの中から、これからの時代を生きる私たちの知恵と力が生まれてきます。人口の数に関わらず、このまちはもっと面白く、もっと温かい場所になっていくはずです。

「第2次 真庭市図書館みらい計画」は、これからの5年間、皆さんと一緒にこの「拠点」をつくっていくためのよりどころとなるものです。

答えはどこかにあるのではなく、私たちが集い、語り合う中で生まれてくるものです。

さあ、図書館で会いましょう。

そこから、新しい真庭の日常を、共に始めていきましょう。

真庭市教育委員会 教育長

三ツ宗宏



目次

第1章 計画の位置づけ	1
1 計画策定の背景	1
2 計画の位置づけと計画期間	2
(1) 上位計画との関係	2
(2) 子ども読書活動推進計画の内包について	2
(3) 計画期間	2
第2章 真庭市立図書館の使命と行動の柱	3
1 使命	3
2 行動の柱	5
柱1 本と出会える場所になる【公共図書館としての存立基盤の整備】	7
柱2 子ども・若者が育つ場所になる	9
【子どもの学びへの能動的な貢献・子どもの読書活動推進】	
柱3 地域（まにわ）と出会える場所になる	11
【地域資源の再評価と新たな価値の創出】	
柱4 いつでも学べる場所になる【知的探究に応えるコンテンツ戦略】	12
柱5 誰かにつながる場所になる【市民がつながる地域交流拠点創出】	13
3 図書館運営の評価方法	14
第3章 資料編	15
1 第2次図書館みらい計画策定に向けての意見聴取状況	15
(1) 意見聴取状況	15
(2) 意見聴取の内容	16
2 第1次真庭市図書館みらい計画5年間の取組み	20
(1) 運営状況の評価について	20
(2) 5年間のまとめ	24
(3) 新聞掲載など	28

第1章 計画の位置づけ

1 計画策定の背景

真庭市立図書館は、2021年5月に策定した「真庭市図書館みらい計画(真庭市図書館基本計画・子ども読書活動推進計画)」(以下「図書館みらい計画」という。)に基づき運営してきました。

この計画の策定は、コロナ禍の真ただ中でした。図書館が活発に利用されればされるほど、感染のリスクを高めてしまうのではないかと、との不安を抱えながらのスタートでした。以来、5年、市民とともに対話を重ね、知恵をしぼりながら事業を展開してきました。

まず、中央図書館を中心とした全7館と自動車文庫「ブックるんまにわ」による市内の図書館サービス網を整備し、真庭市立図書館として一体的に運営する基盤を整えてきました。市内の図書館だけでなく、近隣自治体の図書館や岡山県立図書館をはじめ、全国の図書館や国立国会図書館、関係機関等とも連携し、市民の読書や知的探究を支えています(*1)。2023年には、市内26の小中学校すべてに蔵書管理システムを導入し、搬送便を開始しました。これにより、学校図書館から市内全蔵書の検索が可能となり、学校図書館を通じて子どもたちがより多様な図書を利用できるようになりました。さらに、図書館という場のさまざまな使い方や可能性を提案し、市民と一緒に人々の交流や活動の場となるよう努めてきました。

みらい計画に基づいたこれらの実践により、2024年には「Library of the Year2024」優秀賞(*2)を受賞するなど、市の内外から一定の評価を得ています。

図書館みらい計画策定から5年が経過し、2024年度末には真庭市の将来像を示す最上位の計画である「第3次真庭市総合計画(2025-2029)」が策定されました。そこで、図書館でもこの5年間を市民とともに振り返り、次の5年間の図書館運営の指針を定めることとし、「第2次真庭市図書館みらい計画」(以下「第2次みらい計画」という。)を策定します。

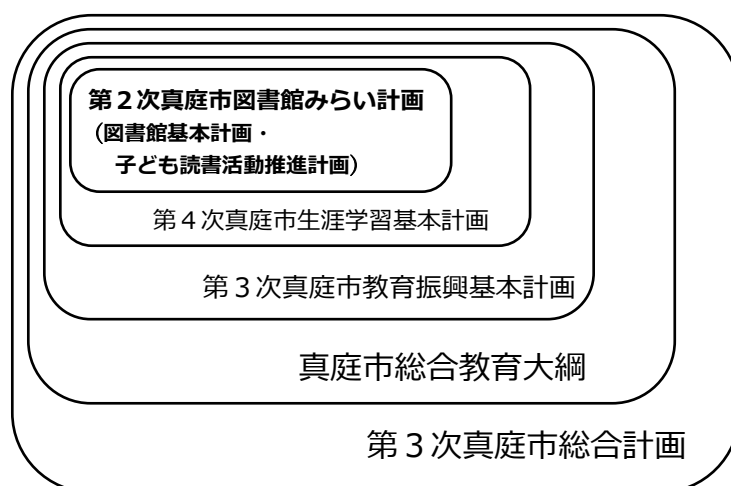
*1 図書館とは「図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設」(図書館法第2条)

*2 NPO 法人知的資源イニシアティブが、これからの図書館のあり方を示唆するような先進的な活動を行っている機関に対して授与する賞。

2 計画の位置づけと計画期間

(1) 上位計画との関係

第2次みらい計画は、「第3次真庭市総合計画」（2025年4月策定。以下「真庭市総合計画」という。）、「真庭市総合教育大綱」（2016年7月策定）、「第3次真庭市教育振興基本計画」（2022年4月策定）、「第4次真庭市生涯学習基本計画」（2022年3月策定）に基づいています。



(2) 子ども読書活動推進計画の内包について

本計画は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」（2001年法律第154号）第9条2項に基づく真庭市の子ども読書活動推進計画を内包します。

(3) 計画期間

本計画の取組期間は、2026年度から2030年度までの5年間とします。計画期間中も、真庭市総合計画の進捗や社会状況の変化を反映し、市民参画による見直しを行っていきます。

第2章 真庭市立図書館の使命と行動の柱

1 使命

真庭市立図書館は、市民や団体による地域自治の拠点として積極的な役割を果たします。

「市民や団体による地域自治」とは、市民がさまざまな情報を共有し、対話を重ね、必要な資源をもちよることで、地域にかかわる取り組みを行っていくことです。

真庭市立図書館は、市民の知る自由と学ぶ権利の保障の基盤となる資料の収集と提供（*3）、多様な企画の実施などを通じて、地域自治の拠点として、その取り組みを支えます。

これは、真庭市がめざす「真庭ライフスタイル（多様な真庭の豊かな生活）」（*4）の実現につながるものです。

- * 3 図書館は、日本国憲法が掲げる、知る権利、学問の自由および学ぶ権利の保障を、日常的な情報提供を通じて具体化する施設である。また、「図書館の自由に関する宣言」（日本図書館協会）では、「図書館は、基本的人権のひとつとして知る自由をもつ国民に、資料と施設を提供することを、もっとも重要な任務とする」としています。

参考：日本国憲法

第二十一条 集会、結社及び言論、出版その他一切の表現の自由は、これを保障する。

二 検閲は、これをしてはならない。通信の秘密は、これを侵してはならない。

第二十三条 学問の自由は、これを保障する。

第二十五条 すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。

二 国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。

第二十六条 すべて国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する。

二 すべて国民は、法律の定めるところにより、その保護する子女に普通教育を受けさせる義務を負ふ。義務教育は、これを無償とする。

参考：「図書館の自由に関する宣言」（日本図書館協会）1954年採択 1979年改訂

図書館は、基本的人権のひとつとして知る自由をもつ国民に、資料と施設提供することを、もっとも重要な任務とする。

この任務を果たすため、図書館は次のことを確認し実践する。

第1 図書館は資料収集の自由を有する。

第2 図書館は資料提供の自由を有する。

第3 図書館は利用者の秘密を守る。

第4 図書館はすべての検閲に反対する。

図書館の自由が侵されるとき、われわれは団結して、あくまで自由を守る。

- * 4 「すべての「人」が、安全に安心して暮らせる「まち」で、自分や家族、そして地域を大切に思い、時代や環境に合わせて、地域資源の中から真庭市で生きる価値を見つけること。自分の手で創り上げていく「生き方」、誇りをもって生きていく「考え方」、互いを尊重した「暮らし方」のことであり、今の私たちの生活の中にあるものです。」（真庭市総合計画より）

2 行動の柱

使命を果たすために、次の5つの柱を設定します。

柱1 本と出会える場所になる

【公共図書館としての存立基盤の整備】

柱2 子ども・若者が育つ場所になる

【子どもの学びへの能動的な貢献・子どもの読書活動推進】

柱3 地域（まにわ）と出会える場所になる

【地域資源の再評価と新たな価値の創出】

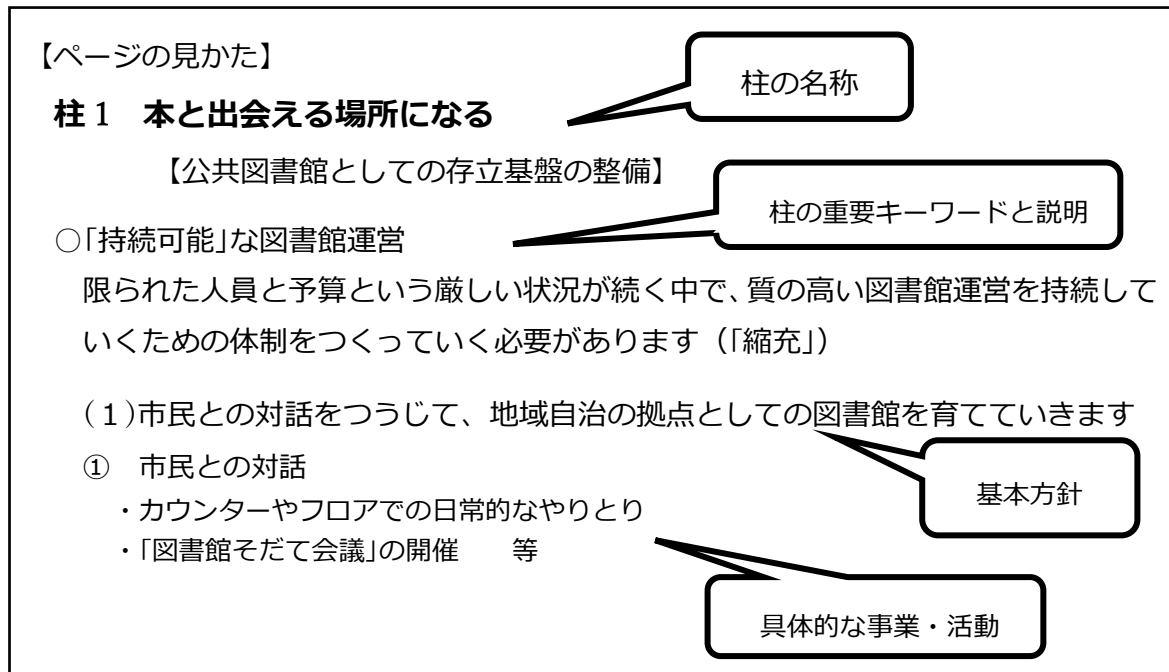
柱4 いつでも学べる場所になる

【知的探究に応えるコンテンツ戦略】

柱5 誰かとつながる場所になる

【市民が繋がる地域交流拠点創出】

次のページから、各柱の基本方針と具体的な取り組みを掲載します。
ページの見かたは次のとおりです。



柱1 本と出会う場所になる

【公共図書館としての存立基盤の整備】

○市民参画・協働

市民の誰もが「図書館があってよかった」と思えるように、市民との対話、協働をつうじたよりよい図書館づくりをめざします。

○「持続可能」な図書館運営

限られた人員と予算という厳しい状況が続く中で、質の高い図書館運営を持続していくための体制をつくっていく必要があります（「縮充」）。

（1）市民との対話をつうじて、地域自治の拠点としての図書館を育てていきます

① 市民との対話

- ・カウンターやフロアでの日常的なやりとり
- ・「図書館そだて会議」の開催 等

② 有識者を交えて図書館の運営について協議・検証

- ・図書館協議会の開催 等

（2）持続して図書館を運営できる体制を整えます

① 人材確保のための条件整備

- ・正規司書職員の継続的な確保
- ・社会教育や地域活動のコーディネーションなどの専門職の確保 等

② 図書館職員のスキルアップ

- ・司書の資質向上をめざした体系的な研修の受講
- ・社会の変化に対応した図書館サービスを提供するための研修の受講
- ・日常業務のなかで職員同士が学びあえる環境の整備 等

③ 地域事情や利用実態などに合わせた図書館運営

- ・開館日数や開館時間の見直し 等

（3）市民が自らの課題に気づき、解決していくための資料や情報を提供します

① 生活や仕事に関わる様々な課題の発見と解決の支援に役立つ選書と情報提供

- ・資料の貸出、レファレンス、図書のテーマ展示、講座等の実施
- ・図書館のサービス内容の周知、発信強化 等

② 市民による市の施策の理解と市政への参加の支援

- ・市主催の講座や催事等での資料・情報の提供
- ・図書館の行政資料コーナーの整備・提供
- ・市職員や議員への資料や情報の提供、レファレンス
- ・市民が市の取り組みを知り、考えるための資料展示
- ・市内の産業や取り組みをSDGsの視点で捉え直す資料収集と企画展示 等

③ 市民の ICT メディアリテラシーの向上の支援

- ・ ICT が苦手な人に向けた情報機器やアプリの使い方、SNS や生成 AI に関する講習会の開催
- ・ 進化し続ける情報化社会への対応や情報格差をなくすような講習会等の開催 等

(4) 地域の中で図書館サービスを展開します

① 自動車文庫の運行

- ・ 巡回先、巡回ルートの見直しなど、利用実態にあわせての運行を継続 等

② 市民の地域拠点や人が集う場所への図書館資料の提供

- ・ 公民館やコミュニティセンター等への団体貸出 等

(5) すべての人に開かれた図書館サービスを構築します (読書バリアフリーの推進)

① アクセシブルな資料 (大活字本、音訳・点訳資料、布絵本など) の提供

② 年齢、性別、障害、民族など多様な背景や経験を持つ人たちが図書館サービスを利用できる環境の整備

- ・ バリアフリー機器の導入検討
- ・ 図書を届ける仕組みや来館しなくても利用できるサービスの検討
- ・ 「LL 版 (やさしくよめる) 利用案内」の作成
- ・ 「やさしい日本語」の活用
- ・ 案内表示は大きく見やすく、色の組み合わせに注意する
- ・ ホームページのアクセシビリティの向上 等

③ 読書バリアフリーについての啓発

- ・ 読書バリアフリーに関する資料や情報の提供
- ・ 読書バリアフリーに関する講座・講演会、上映会等を開催
- ・ 庁内関係部局や市民団体等との連携による情報提供や啓発企画の実施 等

④ 外国ルーツの人たちへのサービス

- ・ 多言語の資料や情報の提供
- ・ 日本語学習に関わる資料の提供
- ・ 庁内関係部局や市民団体等と連携し、現状やニーズを把握 等

柱2 子ども・若者が育つ場所になる

【子どもの学びへの能動的な貢献・子どもの読書活動推進】

○「こどもまんなか」

子どもと本との出会いの可能性を広げ、育ち、学ぶ権利を保障します。
同時に、子どものやってみたいが尊重される、子ども・若者の居場所ともなることをめざします。

○学校図書館支援

学校は子どもたちにとってもっとも身近な本との出会いの場です。
読書センターとしての学校図書館機能をさらに充実させるとともに、授業への学校司書の参画など、学習センター・情報センターとしての機能を高める支援を行い、生涯にわたって読み、調べる基礎を育てます。

(1) 乳幼児親子が本に出会い、親しめる環境を整えます

- ① 乳幼児を連れた人たちが図書館へ出かけてみたくなる工夫
 - ・授乳室、おむつ替えコーナー等の分かりやすい表示
 - ・乳幼児保護者向け図書館利用案内の作成・配布
 - ・保護者向け資料の充実 等
- ② 本や物語との出会いや保護者同士の交流の機会づくり
 - ・図書館員やボランティアによる「おはなし会」の実施
 - ・真庭市愛育委員会による乳児家庭への訪問（ブックスタート事業）への協力
 - ・市主催の母子保健事業を図書館で開催 等
- ③ 保育士や幼稚園教諭を対象とした図書館サービスの充実
 - ・保育士や幼稚園教諭向けの絵本講座実施 等
- ④ 保育園、幼稚園、こども園への自動車文庫の乗り入れや団体貸出

(2) 児童生徒がいつでも読み、調べられる環境を整えます

- ① 学校図書館への支援
 - ・学校司書の授業への参画
 - ・学校と市立図書館間での資料搬送の継続、充実
 - ・学校間での資料搬送の実施
 - ・教員向け資料の収集・貸出
 - ・子どもの発達や個性に応じた多様な資料提供へのサポート 等
- ② 学校司書による学校図書館運営スキルの向上
 - ・学校司書の資質向上のための研修機会の充実
 - ・連絡会や授業見学等、学校司書同士が互いに学び合う機会の充実 等
- ③ 放課後児童クラブ等への、自動車文庫の乗り入れや団体貸出の充実

(3) ユース世代が、図書館でいろいろな本や人に出会う機会をつくります

- ① ユースの興味・関心に応える資料・情報の提供
 - ・中高生へのヒアリングをもとにティーンズコーナーの資料の見直し
 - ・学習に役立つ資料の充実
- ② ユースが過ごしやすい環境づくり
 - ・学習スペースや休憩スペースの充実 等
- ③ 中学、高校、大学、ユースセンターなどと連携した企画の開催
 - ・職場体験の受け入れ
 - ・中学や高校の図書委員による市立図書館での図書展示
 - ・ユースの「やってみたい」を実現する取組みの実施 等
- ④ ユースに関わる専門職（ユースワーカーなど）との協働
 - ・図書館での進路相談会の実施 等

(4) 子どもが安心して居られる場所になります

- ① 一人でも、友だちとでも安心して過ごせる環境の整備
 - ・子どもたちを見守る人の確保 等
- ② 子どもの成長と興味にあわせた、多様なジャンルの資料を収集・提供
- ③ 子どもの意見を聞きながら、「やってみたい」を実現する取組みの実施
 - ・子ども発案のイベントを子どもと一緒に企画・実施 等

柱3 地域（まにわ）と出会う場所になる

【地域資源の再評価と新たな価値の創出】

○市民と創る

市民が持つ地域に関する記憶、知恵、文化を、市民とともにたのしみながら記録・蓄積・発信していきます。

（1）地域の人たちと一緒に地域の文化・歴史・くらしを再発見し、あらたな価値を創ります

① 地域の人たちに話を聞いて記録、発信していく

ex.「まにわ図書館ラジオ」の展開

※図書館に集うさまざまな人に話をうかがい、真庭を再発見するラジオ番組。真庭にまつわる話やお気に入りの本の話など、まちや本にまつわるおしゃべりを繰り広げる。当日の生放送は図書館内のみ。後日、図書館ホームページでアーカイブ放送あり。

② 地域の歌や踊りを記録し、伝えていく

ex.「真庭校歌研究室」の継続

※市民と一緒に、市民からの情報提供により、真庭市内にある（あった）学校情報の収集と整理、校歌の音源、作詞者、作曲者、エピソードなど（以下、「校歌情報」とします）を図書館の地域資料として収集するもの。収集した効果情報は図書館ホームページで発信している。

③ 地域の人たちが作った資料を保存し、誰でも見ることができるようしていく

ex.「ジモスタブックス」の充実

※地元（ジモト）の方々が、地元（ジモト）のことを調べて発行された資料を収集し、図書館ホームページでも読めるようにしている取り組み。

④ 郷土資料の図書館への寄贈の呼びかけ

- ・書籍に限らず、地域で暮らした人たちが残した資料の収集に努める

⑤ 収集・保存した資料を活用して真庭の魅力を発信する

- ・地元の多彩な産業や商業、伝統工芸の魅力を再発見、発信するイベントや企画の開催

（2）劣化が進む郷土資料のデジタル化を進めます

① 図書館が所蔵する紙の郷土資料をデジタル化、保存、活用する環境を整える

- ・デジタル化の基準や作業方法を示したマニュアルを作成
- ・継続して実施していける体制の検討 等

柱4 いつでも学べる場所になる

【知的探究に応えるコンテンツ戦略】

○知る・学ぶ機会の共創

学びを支える基盤を整備し、情報へのアクセスを容易にするとともに、さまざまな機関との連携により、多様な学びの機会を創出します。

(1) 誰もが学びやすい環境を整えます

- ① 市民の「知りたい・調べたい」に応じたサービス
 - ・資料の探索、探索方法の案内、関連・専門機関の紹介など調べもののサポート（レファレンス）
 - ・真庭市内のほか、他自治体図書館や国立国会図書館等からの資料取寄せ
 - ・暮らしに役立つ情報、時事的・社会的な内容など多様なテーマでの関連図書展示
 - ・市民が互いに教えあい、学びあう機会をつくる 等
- ② 全図書館での Free wi-fi 環境の維持
- ③ 関連部局と連携し、学びのスペース充実を検討

(2) いろいろな団体や組織等と連携して市民の学ぶ機会を増やします

- ① 大学や美術館・博物館等社会教育機関等との連携企画を開催
ex.「ライブラリーそもそもトーク」
※さまざまな分野の専門家や研究者を招いて開催する講演企画。
 - ・放送大学との連携講座の実施
 - ・蒜山郷土博物館や津黒いきものふれあいの里などとの連携企画 等

柱5 誰かとつながる場所になる

【市民がつながる地域交流拠点創出】

○社会的包摂

年齢、性別、障害、民族など多様な背景や経験を持つ人々にとっての居場所ともなり、出会い、交流し、関係を育むことができる場になります。

○「人口×活動量」

市民の「やってみたい」に応える場であることをめざします。

(1) 市民の「やってみたい」に応えます

① 市民の発案によるイベントやプログラムの開催支援

ex.「勝山もちより盆踊り」

※市民有志とともにコロナ禍で休止していた勝山地区の盆踊りを復活させた取り組み。

② 社会教育や地域活動のコーディネーションの専門性を持ったスタッフの確保

・ミッション型地域おこし協力隊の募集

(2) 用事がなくても気軽に「行ってみよう」と思われる図書館になります

① 思いがけない本との出会いを創出

・多様なテーマでの図書展示
・イベントや企画にあわせた関連図書の展示

② 居心地のよい環境の整備

・館内レイアウトの工夫（分かりやすい棚見出し、椅子や机、観葉植物やこたつの設置等）
・BGM等快適な音環境の工夫
・利用者が目的に合わせて過ごせるようなゾーニング（静かに利用できるエリアと会話や活動ができるエリア等）

③ 利用者と図書館職員との日常的なコミュニケーションを大切にする

(3) 人が集うところへ出向き、図書を通じた交流の場をつくります

① 市民が集まる地域のイベント等への参加

・イベント等への自動車文庫の出動
・講演会会場等へ出向いての関連図書の展示と貸出 等

(4) 多様な背景や経験を持つ人々が交流できる場になります

① 市民が日常生活の中で関わるのが少ない、年齢、性別、障害、民族など多様な背景や経験を持つ人々と出会い、互いを理解しあえる場をつくる

ex.「ないまぜマルシェ」への協力

※障害のある人もない人も一緒にたのしめるマルシェやワークショップイベント。

・多様な文化や芸術・芸能等を紹介する企画、体験できる企画の実施
・さまざまな国や文化をテーマとした映画の上映
・多世代が交流できるような企画（昔あそびや昔話の語りなど）の実施 等

3 図書館運営の評価方法

真庭市立図書館では、本計画に沿った図書館の活動を次の4つの指標により評価していきます。

(1) 図書館があつてよかったと思う市民の割合

真庭市立図書館が使命とする「地域自治の拠点」としての役割を果たしている状態とは、市民が直接図書館を利用するという場面だけでなく、図書館と多様な関りを持ち、それをよいと感じていることを意味します。

「離れて一人で暮らす親が図書館へ行くことを日課にしている安心している」「市外に住む知人に真庭市の図書館はすごいねと言われた」など、一人でも多くの市民に、さまざまな理由で、「真庭市に図書館があつてよかった」と思ってもらうことをめざします。

調査方法=毎年度アンケート調査を実施。

回答者数のうち図書館があつてよかったと思う市民の割合を算出

(2) 市民や団体との事業の内容、開催数と参加人数

市民との対話を重ね、「やってみたい」に応じていく図書館となっているかを知るために、市民、団体とともに企画・実施した事業の内容や開催数、参加人数を確認していきます。

(3) 実貸出利用率

真庭市民のうち、一年間に一度でも図書館資料を借りた人の割合を示す数字です。「図書館みらい計画」では、5年間で平均10.9%でした。

次の5年間は、この数値を目安として市民の図書館利用状況を確認しつつ、図書館運営の改善に役立てます。

(4) 市民による評価点と課題

先に挙げた3つの指標は、図書館の活動を定量的に測るものです。このほかに、図書館の様々な活動によって地域や市民にどのような変化が表れたのかを知り、業務の改善や新たな活動につなげていくことが大切です。

そこで、アンケート調査や図書館協議会での意見聴取、「図書館そだて会議」を最低年に1回開催することで、市民と図書館が対話を重ね、各館の評価点と課題を挙げることで定性的な評価を行い、市民とともに図書館の運営状況を点検していくこととします。

第3章 資料編

1 第2次図書館みらい計画策定に向けての意見聴取状況

(1) 意見聴取状況

聴取時期	聴取場所	回 答
2025年10月4日土曜 9:00～15:00	勝山高校 鼓山祭にて ヒアリング	98人（うち高校生80人 中学生18人）
2025年10月9日木曜 10:00～12:00	図書館そだて会議 @久世図書館	8人
2025年10月16日木曜 10:00～12:00	図書館そだて会議 @落合図書館	7人
2025年10月17日金曜 15:35～16:50	図書館そだて会議 @美甘図書館	5人
2025年10月18日土曜 16:30～17:30	図書館そだて会議 @中央図書館	13人
2025年10月23日木曜 10:00～11:45	図書館そだて会議 @北房図書館	5人
2025年10月24日金曜 14:00～15:40	図書館そだて会議 @蒜山図書館	99人（うち小学生から 事前の聴き取り90人）
2025年10月28日火曜 14:00～16:00	図書館そだて会議 @湯原図書館	3人
2025年10月中	市役所各部署からの 意見聴取	提案3件
	全館でアンケート& ヒアリング	107人

(2) 意見聴取の内容

① 勝山高校文化祭 2025年10月4日 でのヒアリング

回答者／中学生 18人、高校生 80人

問1：どんな時に図書館に行っていますか

全体の半数（約50%）が「勉強・自習目的」、次が「本を借りる・読む（約28%）」でした。

分類	件数	主な内容
勉強・自習・テスト	43	「勉強」「テスト期間」「自習」「課題」「受験勉強」など
本を借りる・読む	24	「本を借りる」「読みたい時」「読書感想文」など
調べもの・研究	5	「調べもの」「作文」「研究」「本の下見」など
友だち・遊び・待ち合わせ	5	「友だちと」「遊ぶ」「待ち合わせ」など
余暇	6	「ひまなとき」「時間がある時」「学校帰り」など
学校・授業関連（課題や行事）	3	「小学校で」「課題のため」「学校帰り」など

問2：図書館があつて良かったと思う理由

最も多いのは「勉強・集中できる」と「本が読める・借りられる」で、全体の約6割を占めました。これに「静かで落ち着く」や「身近で便利」「調べものができる」といった安心感や利便性などが続きました。

分類	件数	主な内容
勉強・集中・自習できる	27	「集中できる」「勉強がはかどる」「自習できる」「落ち着いた環境」
本が読める・借りられる	24	「たくさん本をよめる」「感想文の本がある」「無料で本が読める」
静か・落ち着く・安心	12	「静か」「落ちつく」「心が落ちつく」「こたつがある」「すずしい」
調べもの・情報が得られる	7	「調べられる」「ネットにない情報」「いい本を教えてもらえる」
居場所・環境として良い	7	「身近にある」「過ごす場所がない」「時間がつぶせる」「便利」
その他	6	「泣ける小説」「映画祭」「絵本」「子どもと来る」「仕事の合間」

問3：あったらいいな、こういうことがしたいな、などなど自由に書いてください

多かったのは、「勉強環境・自習スペースの充実」、「電子書籍や参考書などの充実」、「カフェや飲食を含むリラックス空間」でした。

○主な内容

【学習・勉強環境（計12件）】

- ・ 個室、自習スペース（地区館で）／3件
- ・ 参考に参考書・過去問・赤本・勉強系の本／4件
- ・ 静かに集中できる勉強場所の充実／2件
- ・ 学術書・古文・漢文・新書などを増やす
- ・ パソコンを使える場所
- ・ 英会話ができる場所

【本・資料の充実に関すること（計13件）】

- ・ 電子で借りられる（電子書籍）／3件
- ・ 本の配置をわかりやすく（ジャンル表示・データ化）／2件
- ・ どの本があるかわかるマップや検索システム

- ・自分が読みたい本をリクエストしたい
- ・感動系・若者向け・アニメ化された本などをまとめる／3件

- ・海外の本や翻訳本を増やす
- ・ライトノベルが読みたい
- ・短編集・TikTokで紹介される本など

【飲食等に関すること（計17件）】

- ・カフェ、テラスやベランダでコーヒーを飲める／3件
- ・お菓子・チョコ・スナック・アイスの自販機／3件
- ・飲食・イートインスペースを増やす／2件
- ・ドーナツ屋

- ・カップラーメン・軽食を食べたい
- ・飲食店、食べもの／2件
- ・ヨギボー・座れる場所などリラックス空間
- ・遊具（すべり台など）
- ・自分だけでいられる個室空間
- ・十分・満足／2件

【イベント・活動に関すること（計6件）】

- ・スタンプラリー・クイズなど／3件
- ・景品やしおりがもらえる仕組み

- ・地域の人や小さい子とワイワイできる日
- ・本のおすすめを探せるイベント

【メディア・映像（計4件）】

- ・テレビで何か見られるとよい

- ・面白い映画の上映／3件

【文化・創作（計2件）】

- ・書道や絵など本以外の文化にふれられる場所

- ・クイズ・文化祭系イベントを継続して

【その他（計4件）】

- ・特にない・十分です／4件

- ② 全館アンケート・ヒアリング 図書館そだて会議やカウンターにて
回答者／そだて会議 50人、小学生からの事前聴き取り 90人、来館者アンケート
&ヒアリング 107人 計 247人

問1：図書館のこんなところがいい、こんなところがすき、ということがあったら教えてください。

最も多いのは「本が読める・借りられる」で、一般の方からは取り寄せの利便性がよいという意見が多く出ていました。続いて「居場所・環境として良い」「静かで落ち着く」など場所としての評価をいただきました。

分類	件数	主な内容
本が読める・借りられる	33	「たくさん本をよめる」「本の取り寄せをしてくれる」「無料で本が読める」
居場所・環境として良い	15	「きれい」「明るい」「広い」「ゆっくり過ごせる」「便利」
静か・落ち着く・安心	14	「静か」「落ちつく」「ゆっくりできる」
調べもの・情報が得られる	6	「調べられる」「知識が得られる」
勉強・集中・自習できる	5	「集中できる」「学習スペースが使いやすい」「オンライン学習ができる」
その他	9	「企画・イベントが楽しい」「職員の対応がいい」「友達づくりできる」

問 2：図書館にあったらいいなと思うもの、もっとこうなったらいいなと思うことはありますか

多かったのは、「地区館の環境整備について」、「本・資料の充実関連」、「イベント・活動の充実」でした。

○主な内容

【環境整備に関すること（計 42 件）】

- ・メディア視聴ができること／3 件（メディア視聴は久世のみ可能）
- ・開館時間を長くする／4 件
- ・運転免許返納した時に身近なところまで本を届けてもらえるシステム／2 件
- ・ディスプレイとコードの貸出
- ・冷房をもっと効かせる
- ・本の内容、ジャンル検索ができるといい
- ・イベントが増えて静かな空間がなくなるのはやめて
- ・車椅子の方が手に取りやすい本の配置
- ・図書館に行けない人に本の郵送サービス
- ・不登校の子ども居場所となれるよう個室等、個の空間を検討してはどうか
- ・どの図書館でも Wi-Fi が使えるようにする
- ・本をおすすめしてくれる AI システム
- ・書架表示のプレートにイラストを加える
- ・学習障害の子ども達が本に接することができるような環境作り
- ・会議室開放ではなく学習室（北房）
- ・学習室の開館時間延長（北房）
- ・座って調べるための椅子（北房）
- ・Wi-Fi の電波状況を改善する（北房）
- ・声を出して本を読める場所（落合）
- ・中央館くらいの規模の図書館（落合）
- ・ソファ・座り心地のいい椅子（落合）
- ・個人で使える机（落合）
- ・ホールやケーブルテレビ、喫茶コーナーと連携した取り組み（久世）
- ・テラスの活用（久世）
- ・小さな子どもが活動できるスペースと、絵本のスペースが分かれている安心できるスペース作り（久世）
- ・図書館が 2 階にあるのは行きにくい（美甘）
- ・1 階で検診や診療の待合者に図書館利用のアピールをしてはどうか（美甘）
- ・Wi-Fi を制限なく使いたい（湯原）
- ・ソファ、マッサージチェア（湯原）
- ・子育てコーナーにカジュアルな本も置いてほしい（湯原）
- ・カラーコピー機（蒜山）
- ・公民館、図書館、ホールなどの一体的な施設（蒜山）
- ・資料を広げられるほどのスペースがない、調べ物をする場所も少ない（蒜山）
- ・友だちとしゅくだいできておやつもたべれる所！犬も・・・（中央）
- ・ひみつばしよがほしいです！（中央）
- ・ゆっくりくつろぎたい（中央）

【本・資料の充実に関すること（計 47 件）】

- ・新しい本をたくさん／5 件
- ・マンガを増やす／5 件
- ・話題の本、人気の本コーナーを作る／3 件
- ・シリーズ本が揃っていないので一つの館にまとめて置く／2 件
- ・本屋大賞のコーナーを作る／2 件
- ・電子書籍を導入する／2 件
- ・大活字本をたくさん置く／2 件
- ・科学や実験の本をたくさん置く／2 件
- ・YouTube や SNS で活動している方の本
- ・話題の本を早く借りたい
- ・本の特集コーナーをもっと
- ・古い本を整理する
- ・文庫本サイズの本
- ・読んでみたい本のリクエストをしやすいにする（予約用紙とは別で）
- ・司書のおすすめ本紹介を展示ではない形とする
- ・エッセイなどの気軽に読める本を増やす
- ・古い作家の本
- ・ゲームやアニメに関連する資料の充実
- ・中央図書館のように絵本の表紙が見えるような棚作り

- ・図書館からの配本を活用して放課後児童クラブの図書を充実させる
- ・詩の蔵書を増やす
- ・色々な言語の本
- ・個人では収集が難しい本
- ・パソコン関係のコーナーは書いた人の名前順ではなく内容別に並べる
- ・市内図書館から借りた本を置くコーナーの資料を増やす（落合）
- ・月刊誌、週刊誌を増やす（落合）

【飲食等に関すること（計8件）】

- ・カフェのようなスペース／3件
- ・おいしいコーヒーが飲みたい
- ・ドリップコーヒーマシン

【イベント・活動に関すること（計43件）】

- ・専門家、研究者の話が聞けるイベント／2件
- ・地域の施設と連携したイベント／2件
- ・集まって手芸をするイベント／2件
- ・本に限らないリサイクルマーケット
- ・カタログなどから希望の映画を上映してもらえる
- ・絵本イベント
- ・フェルト手芸イベント
- ・図書館の楽しさを知ることができるような企画
- ・まにわふるさとカルタを活用した企画
- ・昔の町村時代の映像や写真を鑑賞する機会
- ・ペット自慢、孫自慢の企画
- ・「今月の写真」の展示
- ・中央図書館とは違う各地域独自のイベント
- ・地区館での映画上映をもっと増やす
- ・デジタル媒体で調べる方法を学ぶ教室
- ・モンペを作るイベント
- ・七輪で食べてみる会
- ・近隣の地区館との共同イベント
- ・ユースワーカー等と連携して10代向けのイベント
- ・郷土料理を作る料理教室
- ・健康麻雀をみんなでやりたい
- ・児童生徒の図書カードをポイントが貯まる仕組みにしてプレゼントをあげる
- ・子ども達に絵本に親しんでもらうために読み聞かせをもっとやってみる
- ・百人一首大会

- ・リサイクル図書を活用してロビーに図書コーナーを設ける（久世）
- ・子ども達が読書に親しむ機会作りとしてのゲームやアニメの活用（久世）
- ・映像資料を増やす／2件（美甘）
- ・県立図書館からの「長期一括借受コーナー」を続ける（湯原）
- ・カードゲーム（蒜山）
- ・調べるための本が少ない（蒜山）

- ・喫茶店
- ・しずかであそべるところ（中央）
- ・中央館のようなコーヒーの飲める場所（落合）

- ・中央図書館でやっていた図書館に泊まるイベント
- ・中央図書館で好評だったイベントをアレンジして地区館でもやる
- ・昔あそび（おてだま、おはじき、ゴム段）、唱歌などを子ども達に伝えるようなイベント
- ・図書館ホームページの「Pick up」で紹介した本を全館で巡回する
- ・図書館に泊まって星空観察
- ・図書館の外にどんどん出て行くといい
- ・学びのインプットアウトプットする機会
- ・マルシェ
- ・話題の映画を上映
- ・見学など図書館の楽しさを知れる企画
- ・「北房てらこや」を図書館でやりたい（北房）
- ・学校で学んだこと、おすすめ本、学校での活動などを紹介する取り組み（久世）
- ・「勝山だんじり祭」がおわたったあとなので、幼児の部、低学年、高学年、中高生の部などで鐘とタイコのコンテスト、演奏会みたいな発表をしたらおもしろいと思いました。今、輝いていない子がここに来て輝けるかな（中央）
- ・おにごっこやかくれんぼやラブラブ→すきな人と（中央）
- ・こいのえさやりがしたいです（中央）
- ・市内の学校に通っていない子ども向けにも、図書館たんけん、本の置き場所や図書館のたのしさを知れるような企画（中央）

【WEB サービス、情報発信に関すること（計 11 件）】

- ・スマホサイトが使いにくい
- ・情報発信の SNS
- ・図書館を知ってもらうための広報
- ・子どもがいる保護者に図書館の良さを知ってもらう広報
- ・乳幼児と一緒に参加ができるイベントについて周知してほしい
- ・「まにアプリ」を活用した本の紹介
- ・テーマ展示についてもっと広報をしたらいい
- ・「広報真庭」に図書館への投書用はがきをはさむ
- ・新刊のおしらせを分かりやすくする
- ・読みたい本がなかった場合に取り寄せてもらえるサービスの PR
- ・学生向けに夏休み、テスト前の図書館利用の PR

【運営（計 10 件）】

- ・利用者と職員のコミュニケーションがあるといい／2 件
- ・レファレンスサービスの充実／2 件
- ・施設等に図書館の本を貸出し定期的に入れ替える
- ・学校司書の複数校兼務をやめる
- ・2 週間の貸出期限を 1 ヶ月にする
- ・病院への図書館出張
- ・学校図書館との連携
- ・司書さんが正規採用だったらいいな

【文化・創作（計 3 件）】

- ・図書だけでなく美術品等を置く
- ・キッズコーナーの絵本をもっとアートに飾る
- ・市民が制作した作品を図書館に展示する

【その他（計 11 件）】

- ・本の紹介をしたり、人とのつながりができたりする掲示板
- ・郷土料理の紹介動画をアーカイブしていきたい
- ・特にない
- ・満足
- ・理想の図書館
- ・高梁や鏡野の人から真庭の図書館は公立でいいなどよく言われます。高梁はお店が入って主体となったとテレビで見たことがあるが、両方行ったことがないので違いがわからない。ただ、一度失ったら大変なことだとはわかります。
- ・中央図書館で資格試験の勉強に利用します。飲食ルームでゲームをして遊んでいる子に初めはとまどいました。でも暑い時、寒い時、雨の時、友だちと「図書館に行こう」とさそいあってすごしたことは町の思い出の深いところに残ると思います。よく遊んだ図書館で勉強したり、調べたり、本を読んだり、借りたりするようになるのではないのでしょうか。年がだいぶ大きくなっても図書館にきつと来そう。私もそれが習慣になってきました。
- ・図書館は生涯学習の舞台でもあるとここでわかりました。いろいろな講座や映画、盆踊りの余興に劇の練習もしました。たくさんの司書さんがいろいろ担当してくださっているのでしょう。図書館とともに訪れる子どもも成長していく。大人になって帰省したらあの時の司書さんがいた、なんてすてきだと思います（中央）
- ・夏頃から毎日勉強している若い女性。夢がかなうといいな、応援しています。たくさんの新聞のクロスワードを毎日といている人、見ない日はさみしいなと感じるようになりました。試験勉強で来た教え子と時々会って話すのも楽しみ。自動販売機がないとジュースもおごれないから販売機も OK.中央図書館 大好き！
- ・家の近くに友だちの家がないので、友だちと会える場所になるとうれしい（中央）
- ・あそびたい（中央）

③ 市役所各部署からの提案／3 件

- ・福祉課、発達発育支援センター：
「手話言語の国際デー」や「世界自閉症啓発デー」などの機会に、図書館での資料配布や関連書籍の展示と貸出を行いたい
- ・こども家庭センター：
「パパママクラス」などの母子保健事業の会場として図書館を利用するなど、事業の連携を行いたい

2 第1次真庭市図書館みらい計画5年間の取組み

(1) 運営状況の評価について

「第1次真庭市図書館みらい計画」では、図書館の運営状況の評価するために、定量的な指標として、①実貸出利用率、②市民や団体、学校との協働事業数と参加人数の2つ、定性的な指標として、③図書館協議会や図書館そだて会議などで市民との意見交換や対話を重ねるなかで評価される点や課題となる点を洗い出していくことの3つを用いてきました。

① 実貸出利用率

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
実利用者数	4,688人	4,827人	4,681人	4,396人	4,389人
人口	43,915人	43,094人	42,102人	41,260人	40,362人
実貸出利用率	10.68%	11.20%	11.12%	10.65%	10.87%

※人口は各年度、4月1日時点

② 市民や団体、学校との協働事業数と参加人数

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
事業回数	263回	393回	409回	402回
参加人数	2,664人+a	3,082人+a	3,345人+a	3,732人+a

※「+a」としているのは、参加者数をカウントできない事業があるため

③ 図書館協議会や図書館そだて会議などで市民との意見交換や対話を重ねるなかで評価される点や課題

以下は2022年度から2025年度第1回目の協議会での主な意見。

(2022年度図書館協議会①)

- ・実貸出利用率を上げるには中央図書館だけでなく各地区館が地元の人にどれくらい働きかけられるかだと思う。
- ・昨年、社会教育委員会で市内の図書館を視察した。各館の司書のやる気を感じた。
- ・図書館で本を読まなくても、集う場所としての機能があれば若者は公民館や図書館のようなコミュニティスペースに集まっていくと思う。
- ・公共のものは硬いイメージがあるが、SNSの発信など積極的に図書館らしくない。図書館の枠を超えた取り組みもされており、変化し続けているという印象を受ける。

(2022年度図書館協議会②)

- ・図書館は静かに本を読むところという固定観念があるが、スペースを区切ってコミュニケーションできる場所になってきていると感じる。
- ・中央館は図書館を中心に他の様々な機能を持たせコミュニティの拠点になりつつある。
- ・児童から意見を集めてそだて会議で伝えた。その意見が少しずつ実現し、自分たちの意見が生かされていることを子どもも実感できている。

(2023年度図書館協議会①)

- ・中央図書館の来館者数が前年より5,000人近く増えたが貸出に繋がっていないとのことですが、図書館が「図書」と「館」だと考えるなら、館としての機能がしっかり機能しているので前向きに評価していけばいい。
- ・「図書館そだて会議」に多くの市民に参加してもらうためにも告知を早くしてほしい。そうすれば同じ顔ぶれにはならないのではないか。「図書館そだて会議」とは何かという説明も必要。
- ・各図書館に特長があり、利用される方の年代に応じた工夫がされていると思います。
- ・各館の共通性も増え、全ての図書館で連携がはかれていると思います。
- ・図書館に行ったら子どもがうるさいと怒られて、行けなくなったという話を聞いた。休日に親子で遊びに行ける場所になればいいなと思います。
- ・館内がにぎやかになるなら、静かに読めるスペースを作っていけたらいいですね。

(2023年度図書館協議会②)

- ・アンケートでは、図書館は居心地がいいとおっしゃっている人が多いですね。場としての魅力みたいなものが真庭の図書館にはあると思う。
- ・真庭市の図書館は、単に本を貸し出すだけではなく、多世代の居場所や市民交流の拠点として、様々な機能や活動があり、工夫がある。そうした実態を評価するための指標があればいいなと思います。
- ・やったことをただ報告している。一つの事業について、定員に満たなかった場合、改善すべき点は？といった話がない。
- ・数字はうまく利用して、やっていることをうまく発信していくといいと思います。
- ・子どもたちがたくさん来ているのっていいなっていう図書館になるといいなと思います。
- ・みらい計画に基づきつつ、各館がオリジナリティをもって、図書館ってこんなことができるんだ、あんなことができるんだと、集まるきっかけや遊び方とかやわらかいイメージの図書館ができあがってきたなと思います。
- ・協議会に出て、図書館職員の仕事を知りました。中央館も各図書館もそれぞれよくされている。そんな職員のみなさんを信頼しています。

(2024年度図書館協議会①)

- ・市民の自治や学びにとって公民館は非常に重要だと思うが、真庭にはないので図書館にさまざまな機能が求められる。いろいろなイベントを図書館がやることによって来館者数はとても伸びてきていると思います。ただ、これも地域格差がありますね。
- ・本を借りてもらおう工夫や空間づくり、本の見せ方のおかげで、本を借りる人が増えているように思います。この部分も数値化できるといいですね。
- ・図書館によって空間、規模、立地など制約がある中で、特色を出していく努力をされていると来館者数から感じました。

- ・学校と公共図書館とのシステム連携ができてありがたい。学校司書が全校に週1回は来てくれるようになり、非常に充実してきた。
- ・おはなし会に来る保護者がすごく減った
- ・異常気象で人の行動が変わっているという話も聞く。図書館にあてはまるかまでは分かりませんが。
- ・イベントというのは全ての館がどんどんやらなくてもいいのかなという気がしています。
- ・図書館職員が地域に積極的に入っている。地域の会合とかにも入っていて、一緒にやろうというスタンスが見える。イベントで地域の人から声がかかるとかっていう話もあって、やっぱり地域に出るといのがすごいなと感じています。

(2024年度図書館協議会②)

- ・各館が地域に密着した取り組みをされていて良い環境だなと思います。
- ・少ない人数でよくやられている。勝山小の1日図書館運営イベントの時に館長が、「真庭の図書館だから出来るよね」と言われていた。地域の方にもあたたかく見守っていただけた。都会にはない地域の良さだと思う。
- ・中学生が本を読んでないのは課題だと思いました。図書委員など、図書館と交流・連携して読書につながるといいなと思いました。
- ・そだて会議で出された意見をしっかり実行されている。
- ・そだて会議の記録で、移動手段がないから行けないというのが目につきました。地域に出てきて欲しいという意見もあったと思います。学校に出張してイベントをしてくださるのもいいのかなと思いました。
- ・図書館まで足を運ぶ方法がないというのは市域が広い真庭市の特徴だと思った。図書館がどこまで支援できるか。
- ・そだて会議で「音楽がかかっていたら入りやすい」という高校生からの意見について、「うるさいと思う人もいかもしれないから慎重にしたい」と返されていた。せっかくだから、一緒に試行錯誤しながらやってみては。
- ・そだて会議で、真庭高校にも司書がいるので連携したらいいと思った。
- ・美甘図書館でのそだて会議の記録に「図書館で小学生と話ができてうれしい」という意見がありました。高齢の方が小学生と交わる場というのは大切なこと。
- ・そだて会議では、各館できている所を見てあげてほしいと思います。異業種や地区の団体とコラボしたイベントが盛んに行われていて嬉しい。
- ・図書館が公民館的なこともしていて、オーバーワークもあると思う。各振興局の社会教育主事などと連携していくといいと思う。
- ・そだて会議の参加者が固定化しているようだが、何かイベントのあるときに気軽に意見交換できる機会を持つとよいのでは。

(2025年度図書館協議会①)

- ・学校図書館のシステムが整ったことは大きな成果だと思っています。司書の研修もしっかりされていて、専門的なアドバイスもいただける。
- ・学校の空き教室を公民館的に使って、地域と子どもたちとの交流が活発になるといいと思う。へき地でも図書に触れる機会が得られるように動いていきたい。
- ・運営実績からも各地区館の活動が活発になってきていると思いました。司書が少ない中で新しいこ

とを進められていてすごい。努力が数字に表れていると感じました。

- ・子どもが産まれて、今まで以上に図書館に行きたくなった。
- ・計画の改定では、市民に分かりやすい言葉に変更してもいいかも。
- ・次の5年間でこれだけはやるということを重点的に決めた方がよい。居場所作りは、図書館以外に公民館や学校でもやっている。それぞれの役割を活かして連携することが大切。

(2) 5年間のまとめ

- ① 7館+自動車文庫による図書館サービス網を整備。資料の貸出とレファレンスサービスにより、市立図書館としての基本的なサービスを提供した。
- ② 図書館協議会や図書館そだて会議の開催など、市民と対話しながら図書館の活動をふり返り、改善するためのしくみを整備した。
- ③ 学校に蔵書管理システムを導入し、学校図書館と市立図書館との連携を強化。子どもの読むこと、知ることを支える体制を整えた。
- ④ 司書のスキルアップの機会を充実させた。公共図書館、学校図書館ともに、定期的な会議実施や各種研修への参加により、司書業務の質の向上を図った。
- ⑤ 全館での図書館そだて会議やさまざまなイベントを通じて、市民に「図書館に行けば何かできる」という認識が広がり、市民とともにつくる図書館・市民自治の拠点としての図書館のイメージを具体的に示すことができた。



Library of the Year2024 優秀賞受賞

【授賞理由】「真庭市図書館みらい計画」に沿ったまちぐるみの図書館活動

【授賞理由の詳細】市民との対話による「図書館そだて会議」で策定したみらい計画を土台に、「あそび」の生まれる時間を大事にしながら、「生き方」「考え方」「暮らし方」の学び合いを実践している。統廃合校を含む市内の小中学校の校歌を卒業生とともに情報収集・整理・発信する「真庭校歌研究室」や、勝山高校図書委員会による「イチオシ本」展示の取り組みのように、図書館を拠点とした学びとつながりによって真庭市の一体感を醸成している。

次のページからは、柱1から柱5でのふり返りを行います。

柱1【公共図書館としての存立基盤の整備】

◎5年間でできたこと

- ・7館+自動車文庫（ブックるん）による図書館サービス網を整えた。
- ・図書館そだて会議や図書館協議会の開催など、市民と対話しながら図書館の活動をふり返り、改善するためのしくみができた。
- ・資料の貸出やレファレンスサービス、図書館システムの更新により、市民の暮らしや仕事、まちづくりに資する図書館づくりに努めた。
- ・ホームページのリニューアル、SNSの活用など図書館の広報を行う体制を整えた。
- ・様々な研修の機会をつくり、司書のスキルアップを図った。

▼とはいえ…

- ・限られた人員と予算という厳しい状況が続く中で、質の高い図書館運営を持続していくための体制をつくっていく必要がある（「縮充」）
- ・図書館そだて会議等で市民との協働を進めてきたが、参加者が固定してきている。
- ・高齢化で図書館を利用し続けたいが免許を返納しなくてはならないという方や入院により利用できない方などが増えてきたため、図書館サービスを「届ける」仕組みの整備が課題。



自動車文庫



図書館そだて会議

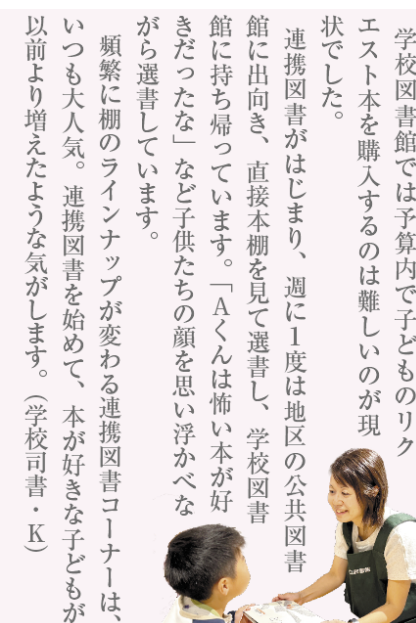
柱2【子どもの学びへの能動的な貢献・子どもの読書活動推進】

◎5年間でできたこと

- ・市内26校すべてに蔵書管理システムを導入し、市内全蔵書の検索・活用が可能になった。
- ・学校図書館への搬送便を開始し、子どもたちが学校図書館で市立図書館の本を利用することが可能になった。
- ・学校司書が市立図書館へ出向き、選書や資料借受ができる仕組みを整備した。
- ・子育て支援課と連携して、乳幼児とその保護者向けに図書館の利用案内や資料の紹介を行うなど、図書館による子育て支援に取り組んだ。
- ・自動車文庫の運行基準を見直し、子どもが通う施設へ出向くことを明記した。
- ・中央図書館内でユースセンターとの連携事業が始まった。

▼とはいえ…

- ・学校司書の授業への参画など、「学習センター」としての学校図書館機能については、今後の課題。



学校図書館では予算内で子どものリクエスト本を購入するのは難しいのが現状でした。
連携図書がはじまり、週に1度は地区の公共図書館に出向き、直接本棚を見て選書し、学校図書館に持ち帰っています。「Aくんは怖い本が好きだったな」など子供たちの顔を思い浮かべながら選書しています。
頻繁に棚のラインナップが変わる連携図書コーナーは、いつも大人気。連携図書を始めて、本が好きな子どもが以前より増えたような気がします。（学校司書・K）

- ・各館でのおはなし会参加者が減少している。
- ・少子化のなかで、子どもに知る喜び・読む楽しさを届け、人と本、多様な人とのつながりを作っていくこと。
- ・子どもや若者の居場所としての機能を図書館単独あるいは司書だけで果たしていくことに限界がある。



柱3【地域資源の再評価と新たな価値の創出】

◎5年間でできたこと

- ・「真庭校歌研究室」や「まにわ図書館ラジオ」などの実践を通じて、市民とともに地域の記憶を記録し、発信する方法を開発し、その価値を実感することができた。
- ・真庭ならではのSDGsという視点を持って「富原茶」「山中一揆」「植物標本展」などをテーマに講演会やワークショップを実施したほか、各館で地域固有のテーマ展示や各地区館での特色棚の整備を行った。

▼とはいえ…

- ・基本的に方向性は継続。より多くの市民と日常的に活動を重ね、顔が見える関係を作りながら、地域資源をアーカイブしていく必要がある。
- ・劣化が進む郷土資料のデジタル化に着手しているが、専任の担当者がいないため進捗が遅い。デジタル化後の公開・検索・利活用の仕組みも未整備。



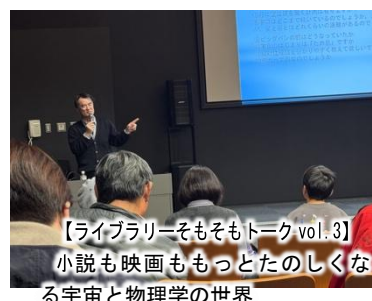
柱4【知的探究に応えるコンテンツ戦略】

◎5年間でできたこと

- ・蒜山郷土博物館、放送大学岡山学習センター、岡山県立博物館など多様な機関と連携して、市民にさまざまな学びの機会を提供した。
- ・市民の学びたい気持ちに応える場として、レファレンスサービスの充実や、他自治体・国立国会図書館等からの資料の取り寄せ、国立国会図書館デジタル化資料送信サービス、学習スペースの提供などを実施。
- ・全館にインターネット端末・FREE Wi-Fiを整備。

▼とはいえ…

- ・図書館が地域の「知」を集積・公開していることが市民に十分知られていない。予約やリクエスト、レファレンスサービス（調べもの支援）が市民に十分知られておらず、活用されていない。
- ・市によるFree Wi-Fiの提供が終了するため、図書館独自で整備する必要がある。
- ・Free Wi-Fiなど市民の情報アクセスを保障するとともに、メディアリテラシー向上支援を進める必要がある。



柱5【市民が繋がる地域交流拠点創出】

◎5年間でできたこと

- ・「勝山もちより盆踊り」「ガザ関連映画上映」「北房平和の集い」「お泊り図書館」「平安あそびでタイムスリップ」「まにわユース文化祭」など、市民提案から事業が生まれ、市民の活動と交流の拠点としての図書館という認識が広がりつつある。
- ・「もちより図書館」「カフェの日」などで、施設の前や施設のロビーで参加者や出店者のおすすめ本を展示、地域の人びとが交流しつながる場づくりを積極的にすすめてきた。
- ・市民主催「猫フェス」や教育委員会「あそびのわ」、市政20周年事業など、行政発、市民発のさまざまなイベントに自動車文庫などで参加し、本を介した交流の場をつくることができた。

▼とはいえ…

- ・市民発案の企画やイベントが増える一方で、スタッフの負担も大きくなり、従来の司書の役割以上のことが求められてきている。社会教育や地域活動のコーディネーションといった専門性をもったスタッフを配置するなど、さらなる展開に向けた体制づくりが必要。
- ・建物の構造上の制約や空間の不足から、「静けさ」と「にぎわい」の両立が難しいことがある。
- ・図書館が多くの人々の居場所となりつつあるが、資料の貸出しにはつながっていない。



北房平和の集い（北房）



オリジナルマグネットづくり（落合）



ポチ袋をつくろう（久世）



もちより盆踊り（中央）



脳トレ！ゲーム大会（蒜山）



プチもちより図書館（湯原）



手芸倶楽部（美甘）

優れた改修が施された国内建築を顕彰する2021年度BELCA賞の「ペストリフォーム部門」に、真庭市立中央図書館（勝山）と湯原ふれあいセンター（豊栄）が選ばれた。同賞受賞は県北では初めて。
（小畑誠）

真庭2施設改修建築賞

中央図書館 市民サービス向上



内外装にCLTを取り入れた中央図書館

大手の建設、設計会社 人・ロングライフビル推進協会（東京）が毎年表などにつくる公益社団法

湯原センター 「街の居間」に再生



湯原ふれあいセンターの待合室

彰しており31回目。適切な3階建て庁舎を耐震な維持保全を対象にした。内外装に新建材C

「ロングライフ部門」と合わせ、6都府県の10施設を選定した。中央図書館は、築40年

LT（直交集成板）を使い、木のぬくもりを醸し出している。「余剰施設を資産と捉え、市民サービスを向上させる明確な意思が実現されており、今後の公共施設の在り方を示した」と評された。

湯原ふれあいセンターは、築35年の平屋建物を全面改修。ホールや図書館、新たに入居した市振興局を待合スペースが緩やかにつなぐ。「今まで以上に人が集い、にぎわいのある『街の居間』として再生し、従来機能の使い勝手も向上させている」と評価を受けた。

県内ではこれまでに、大原美術館（倉敷市）が1994年度、オリエント美術館（岡山市）が99年度にロングライフ部門、ルネスホール（同）が2006年度、きらめきプラザ（同）が07年度にペストリフォーム部門を受賞している。

山陽新聞2022年12月18日Xマスプレゼントに变身

プレゼントさながらにラッピングされた中央図書館



真庭市立中央図書館

図書館は言葉の贈り物。真庭市立中央図書館(同市勝山)の外観が、真っ赤なリボンの装飾と愛らしいイラストで彩られている。建物全体が、ラッピングされたプレゼントに様変わりし、クリスマスの25日まで住民や来館者を楽しませる。(小谷章浩)

正面玄関脇の棟に十字を、アパレル製造の「mani」描く形で縦18尺、横7尺、factor「を」展開す側面12尺にわたって赤い布の「妹尾修一さん(39)がボラ」で飾り付け、縫製は同所で「ンテアで行った。

Xマスプレゼントに“变身”



正面のガラス部分に星などのイラストを描く子どもたち=3日

赤リボンで装飾

親子が描いたイラストも

正面と西側のガラス面には幼児から中学生まで親子約40人によるイラストが描かれ、同所のイベントの一つで、西川イラストレーター・wakikoさんの指導で、赤と白の専用ボスターカラーを使い、星やサンタ、トナカイ、勝山の町並みなどを描いている。期間中、7館の利用者市立全7図書館では12月30日(土)は紹介キャンペーンも行う。新規利用者ともに500円おまけ券も発行している。

山陽新聞2023年3月25日 中央図書館企画ユニーク

「一箱書棚」住民が館長 館内でラジオ収録

真庭

中央図書館

企画ユニーク

図書館で何したい? 真庭市勝山の市立中央図書館は、住民に「一箱書棚」を任せ新企画の実施や、館内でのラジオ収録など、ユニークな取り組みを進めている。(中浜汐里)

2月から始まった「一箱図書館」は、毎月2人の市民を30秒四方の書棚の「館長」として迎え、自身が持つお気に入りの本を紹介してもらおう企画。来館者は書棚の本を借りられ、本に貼られたメモに感想を書き込める。

「館長」第1号の沙樹さんは、市内のフリスクリール「ええがらL.A.O」に通う16歳。戦争を題材にした「あの星が降る丘で」と、一押し作家・汐見夏衛さんの小説7冊を自作のPR文と並べた。

読んだ人からは「紹介してくれてありがとう」といった感想が寄せられ、沙樹さんは「自分の好きな本を読んでくれる人がいるのはうれしい」と笑顔を見せた。

地域の交流拠点目指す

音声を各階の本棚に置かれた小型スピーカーを使い、リアルタイムで館内に放送。後日、動画投稿サイトでも配信している。今後、不定期で収録を行う。真庭市教委は2021年に「図書館の計画」を策定。デジタル化や読書活動の推進のほか、図書館の地域交流拠点化も盛り込む。中央図書館の西川正館長は「図書館は、本が苦手な人にとっては近寄りかたい印象がある」と認めた上で「自分を表現して交流する機会をづくり、もっと面白い場所だと伝えていきたい」と話す。



【上】中央図書館が始めた「一箱図書館」には、住民お薦めの本が並び【右】地域住民がゲストの「まにわ図書館ラジオ」の収録現場=昨年12月

真庭市立中央図書館に並ぶ明治期の植物標本



明治時代採集の植物
に会いに来て。真庭

100年前の植物見て

真庭 中央図書館 標本12点展示

市勝山の市立中央図書館で「100年前の植物標本展」が開かれ、往時に地域で見られた自然の息吹を今に伝えている。31日まで。現在は県レッドデータブックで絶滅危惧1類に指定されているサクランソウのほか、シロツメクサ、ユキノシタなど12点を展示。「茎や葉が地面に張り付くように広がるので、ジゴクノカマノフタとも呼ばれる」(キランソウ)、「咲くのに数年

かかる」(カタクリ)といった説明や関連の書籍を紹介する。地元の小学校代用教員だった九津見肇が明治42〜44(1909〜11)年に作製した標本で、700点以上が旧勝山図書館に伝わり、2018年に同市森山下和の津黒いきものふれあいの里に移管。NHK連続テレビ小説「らんまん」の主人公のモデルで、明治昭和期の植物学者牧野富太郎(1862〜1957年)への注目に伴い、勝山での「帰郷展」を企画した。同時に、

牧野が津山市の教員に宛てた新出のはがきも展示している。

今石美咲司書は「1はせて」と話す。問い合わせ先は、(086)7742200

多くの物語を聞き、心を動きやすく



子どもたちに物語を聞き、心を動かす真庭市立中央図書館で話す杉山さん

30年以上続々「ミルク」杉山のおなまも探偵シリーズで知られる児童書作家杉山亮さん(69)＝山梨県北杜市＝の講演会が真庭市で開かれた。自身が全国で開く「ものがたりライブ(おはなし会)」などに触れ、子どもの健やかな成長には「多くの物語を聞き、心を動きやすくすることが大切」と物語を伝える意義を語った。要旨を紹介する。(中浜妙里)

真庭 児童書作家・杉山亮さん
中央図書館で講演

最近「坂本太郎」などの昔話を知らない子がいる。日本の民話や昔話を話すのは、物語に寄り込む幸福感や価値観を共有するため。それらを受け入れるか反発するかはともかく、共通のサンプルがないと根無し草になって、時代の流行に振り回されてしまう。

おはなし会では物語をもっと聞きたい子どもたちを呼び寄せ、話を聞いてもらう。物語はソフトで、本はハード。物語を耳から届け、面白く感じてもらえれば、本も読むようになる。最近の子は本を眺めたいと言われ、もう何十年もたった。言われた子も親になった。本を読んでもらうには、それと同じだけの歳月をかけるしかない。

物語で大事なものは、子どもたちの心を動かすこと。登場人物に共感し、寄り添うには場数が必要。多くの物語を聞くのは、心を動きやすくするトレーニングだ。たくさん心が動いた人が、いい人生ではないかと思う。

8月になると、戦争の話をする機会が多くなる。昔談本を読まない子にいきなり話すと、大人の意思をくみ取って感想を言うだけになってしまう。大事なものは、それまでにたくさん人の物語を読んで心を柔らかくしておくこと。そうして初めて、戦争の物語を聞いたときにストンと理解できる。どんなにいい種をまいても、土が耕されていなければ何も生えない。僕たちがその状態をどうしていきたいかなければならない。

講演会は2日、真庭市立中央図書館(同市勝山)であった。

【11】山陽新聞 2023年7月12日
多くの物語を聞き、心を動きやすく

閉休校の小中校歌後世に

どの人が口ずさんだ校歌を「地域の記憶、として記録保存し、懐かしの校歌を通じて新たな交流につなげられたらと活動している。
(中浜汐里)

閉校・休校に伴って歌われなくなった真庭市内の小中学校校歌を後世に残そうと、同市立図書館と地域おこし協力隊が協力して情報を集めている。かつて地域で育ったほとん

真庭

市立図書館と地域おこし協力隊 「地域の記憶、情報収集



市内小中学校の校歌について情報を集める「真庭校歌研究室」のメンバー

思い出通じ新たな交流も

市内で1947年の収集を通じて地域図書館を訪ねて来館者の学校教育法施行後にに会話も広げられるに情報提供を呼びかけ閉・休校したのは分校「では」と活動を始めた。歌詞やメロディーとメロディーが両方分 市立図書館と地域 併せ、校歌や学校生活かるとは6校のみで、おこし協力隊の協働事業として「真庭校歌研究」も図書館の務め」究至」を設立、西川館 藤山下福田」では「歴史と西川正・中央図書館 長と同館の上杉朋子司 史はここに、50年」と長。加えて、高齢者に 書、協力隊員の酒井悠 史はここに、50年」と幼少期の思い出話を聞 さん39)と弁慶(本名)という歌詞を、私たちがくくと元氣を取り戻して、高橋数馬(さん36) 『90年』に替えて歌ってくれる経験から、「校歌を中心に7月から、各々(旧福田小)、「最

後の一節だけ思い出せない(旧川上中)などの記憶とともに情報が寄せられた。酒井さんは「協力隊としても地域を知る上で重要な活動」と位置づけ、力を注ぐ。現存する小中26校の校歌や思い出も併せて集め、成果は動画投稿サイト・YouTubeの市立図書館公式チャンネルで紹介していく。26 27日は北房図書館、10月12、13日は美甘図書館で活動する。問い合わせは中央図書館(0866742012)。

障害の有無超えマルシェ

勝山で初開催 販売や飲食 20団体出店



真庭 障害の有 図書館一帯で初めて開 無や年齢に 関わず 市の障害者就労支 援施設、地元飲食店な セプトにした「ないま ぜマルシェ」が9月30 日、真庭市勝山の中央 車場には、施設利用者

障害者支援施設などが出店を並べた「ないませマルシェ」

が製作した木製食器販売や缶バッジ作り体験の出店も並び、家族連れらが買い物や出品者との交流を楽しんだ。マルシェは地域支援コーディネーターの梶岡真吾さん(53) 同市久世Ⅱらでつくる実行委が、共生社会の実現を狙いに企画。梶岡さんらは「人気飲食店にも出店してもらって集客を図り、障害者の収入アップにもつなげた。2回目以降を市内各地で開催できれば」と話した。(中浜汐里)



暖かいこたつで、本づくめの一日はいかが。真庭市勝山の市立中央図書館は20日、こたつに入りながら好きな本や図書館への要望などについて語り合うイベント「ほんの一日」を初めて開く。

20日 初開催
中央図書館 参加募る

「好きな本について語り合う場が欲しい」という利用者の声をきっかけに企画。1階飲食スペースにこたつ3台を並べ、五つの催しを用意する。一つ目は、参加者がお気に入りの書籍を披露する「コタツで“推し本”」(午後1時半)。他に、各自持参の絵本を使う「もちより絵本ビンゴ」(同2時45分)▽谷崎潤一郎や芥川龍之介の短編

こたつで「本」語り合おう
「推し本」や文豪五つの催し



を読む「はじめての『文豪』」(同4時15分)▽中央図書館への要望を話す「図書館そでて会議」(同5時半)▽読まずに放置している本を紹介し合う「積読大新年会」(同7時半)一を行う。同館は「本を好きな人も、あまり読まない人も

大歓迎。企画を通じて何か新しい発見をしてもらえれば」と呼びかける。図書館そでて会議(定員なし)を除き、各回先着10人。いずれも参加無料。地元のカフェやカレー店の出店もある。申し込み、問い合わせは同館(0867-442012)。(中浜汐里)

当日使ったこたつに入り、イベントを円滑にする図書館職員



優雅に豊稔踊披露
食材持ち寄りだんらん

勝山地域



勝山千代萬歳豊稔踊に興じる住民たち

真庭市勝り盆踊りを開いた。山地域の住 市重要無形民俗文化財民らが14「勝山千代萬歳豊稔日、地元の市立中央図書館前で「勝山もちよ食材を七輪で焼く趣向

など併せて夏の夜を満喫した。かき氷や生ビール、輪投げの出店とともに優雅に動く同豊稔踊や、軽快なメロディーの勝山音頭などに老若男女が興じた。所作も見事に豊稔踊を披露した勝山小2年恒藤凜介さん(7)は「練習してきたのでうまく踊れた。次は太鼓に挑戦したい」と話した。

イベントは、江戸時代中期から続くといわれる豊稔踊の継承などを狙いに、地元の20、50代でつくる「勝山踊りましよう会」(江南泰佐代表)が主催し2回目。(中浜汐里)

真庭の校歌収集

廃校後も共有し「財産」に

少子化に伴う学校の統廃合が進んでいる。岡山県内の小中学校は本年度538校で、この10年間で50校余り減った。この春も総社市と美咲町の6校が新しい学校に移行して廃止となる。

廃校を含む真庭市内の小中学校の校歌について、市立図書館が地域おこし協力隊との協働事業として情報を収集、整理、発信している。「真庭校歌研究室」と名付けた活動はユニークだ。市民に情報提供を呼びか

地域から



け、学校の思い出などを聞き取るとともに校歌を歌ってもらう。それを記録し、許諾を得て動画投稿サイト・YouTubeの市立図書館公式チャンネルで公開している。33校目となる有隣中学校の校歌が先日、収録された。1949年開校し、70年に落合

中学校に統合され閉校となった学校である。跡地のグラウンドに、約30人のかつての生徒と教員が集まり、歌詞の掲示を見ながら歌った。写真。作曲者でもあり、卒業し60

社説

年余になる山本和子さん。同市と日笠伸子さん。津山市は「こうした機会があり感無量。高台にあった赤い屋根の校舎の記憶がよみがえった」と語り、同窓生との思い

出話は盛り上がった。取り組みは住民を元気づけることにつながっていると見える。

「流れてつきぬ旭川」「若き希望の火と燃えて」という歌詞には地域の誇りや生徒への願いが込められている。一方、戦前の価値観を映した歌詞が戦後、変更された学校もあるという。地域の歴史を市民が知る一助にもなる。

現在の学校制度になった47年以降、真庭市で閉校や休校になったのは、分校を含め49校。活動を始めて半年余で、

現存する学校と合わせ半数近い校歌を収集した。「校歌は地域の大事な記憶だと改めて感じた。記録する

のは社会教育の拠点としての務め」と西川正・市立中央図書館長は言う。校歌についてのイベントも今月開き、閉校した学校の卒業生が思い出を語ったり、校歌を歌ったりする取り組みも生まれている。

岡山県立図書館（岡山市）も電子図書館「デジタル岡山大百科」の中で校歌の登録を進めている。2008年以降、県内の小中学校など109校の校歌の音声や歌詞を登録しており、図書館のホームページから視聴できる。

校歌はそれぞれの地域や学校の「財産」でもあろう。廃校になっても共有し、地域の活性化に生かしてほしい。

2024.3.17

真庭

中央図書館 初の宿泊イベント

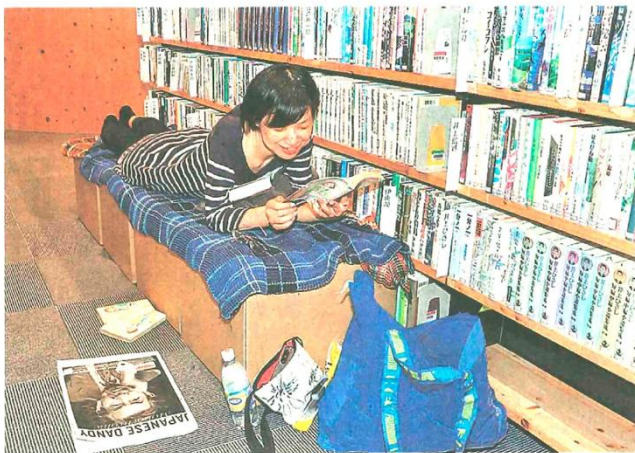
記者も参加

図書館に泊まったこと、ある？
真庭市勝山の中央図書館は館内が「寝室」になるユニークな宿泊イベントを初めて開いた。飽きる

まで本を読んだり、書架の間で寝てみたり…。夜の図書館で人は何をして過ごすのか、記者も参加してみた。(中浜汐里)

飽きるまで読書 書架の間で睡眠

本棚に囲まれ、段ボールのベッドへくぐり参加者



「皆さん、枕は持ってききましたか？」。9月13日午後7時すぎ、閉館して外は真っ暗。西川正館

館長ら 人気ラジオ番組出演も



200回目放送のラジオ番組に電話で生出演する西川館長(中央)と参加者

リアの好きな所で寝ていいという。みんなで自己紹介を終え、寝床作りに取りかかった。
2階児童書エリアの書棚の間に寝床を構えたのは、遷喬小2年の美見有希乃さん(8)。科学漫画や「かいつゾロリ」といった人気シリーズに「右にも左にも大い読める」とうれしう。美見さんに倣い、記

者も原田マハさんらお気に入りの作家の著作が並び、1階書棚の間にベッドを置いた。
電子機器を絶って読書に没頭したり、手芸本のコーナーで趣味の縫い物を満喫したり。段ボールを重ねて秘密基地を作る子どももいて、過ごし方に個性が表れる。ベッドにあおむけで寝転がる本が視界を埋め尽くす。
開催のきっかけは作家がお薦めの本を紹介するなどで人気のNHKラジオ「高橋源一郎の飛ぶ教室」。2022年の第100回放送を記念し、同館は登場本を館に展示。メールで紹介すると番組で読み上げられた。200回目放送日の13日に宿泊の催しを計画。館とスツオを当日電話でつなぎ、西川館長が生放送で高橋さんらにお祝いの言葉を伝えた。
同館は、図書館の地域交流拠点化などを目指す市教委の「図書館みらい計画」(21年策定)に基づき、多彩な催しを開催。来館者は年間約1割増えているという。西川館長は「市民が『これをした』と催しのアイデアを持ち込んでくれることも増えた。図書館をいろいろな使い方です。

市立図書館が優秀賞

全国の先進的な図書館サービスをたたえる「ライブラリー・オブ・ザ・イヤー2024」で、真庭市立図書館の取り組みが優秀賞に選ばれた。ユニークなイベント企画など、地域拠点としての精力的な活動が評価された。

(中浜汐里)

ライブラリー・オブ・ザ・イヤー

同市立図書館は2021年策定の「図書館の新しい計画」に基づき、開校・休校した学校を含む市内の小中学校歌を収集する「真庭校歌研究室」や、館内の宿泊イベントといった幅広い活動を実施。蔵書を市立小中学校で借りられるようにするなど、利用環境の整備に取り組む。地域の意見を運営に反映するため市民参加の会議も毎年開催している。



地域拠点の活動評価

校歌収集や
宿泊催し

「ライブラリー・オブ・ザ・イヤー2024」優秀賞のトロフィーと表彰状

る大賞には、海外へ移民した県民のルーツ調査に取り組み、沖縄県立図書館が輝いた。授賞式が7日に横浜市で開かれ、出席した真庭市立中央図書館の西川正館長と上杉朋子司書は「人口減少が進むまちの図書館として、住民が楽しく暮らせるきっかけ作りを第一に考えている。子どもたちが真庭に住み続けたい、戻ってきたいと思えるような挑戦を続けたい」と話した。県内からの受賞は、瀬戸内市民図書館の大賞(17年)、津山市立図書館の優秀賞(22年)に次ぎ3団体目。真庭市立図書館7館は、受賞記念企画「教えて!あなたのオフサイヤ」を開催中。好きなドラマや驚いた出来事など個人的な「今年の一番」を専用の紙に書いて提出すると、オリジナルの手拭いがもらえる。館内資料を借りることが参加条件。12月17日まで。

真庭

普段なか... 甲田智之さん(39) 同市勝山は「人生の岐路に立つ人にとって役立つ話になるはず。第2弾以降も開催したいので、『この職業の人に会いたい』という要望があればぜひ教えてください。午後6時半〜同8時半。定員50人。参加無料。問い合わせは甲田さん(090-7370-4228)。



まにわジョブミーティングのチラシを持ってPRする甲田さん (中浜汐里)

普段なか... 甲田智之さん(39) 同市勝山は「人生の岐路に立つ人にとって役立つ話になるはず。第2弾以降も開催したいので、『この職業の人に会いたい』という要望があればぜひ教えてください。午後6時半〜同8時半。定員50人。参加無料。問い合わせは甲田さん(090-7370-4228)。



20日初開催の「真庭若者文化祭」のチラシ

「やってみたい」大集合

バンド演奏や
謎解きゲーム
あす若者文化祭

中央図書館

真庭

真庭市在住 イベントの立案や運営やバンド演奏といった
・出身者ら市 営を通じて、まちづく ステージ発表のほか、
ゆかりの若者 りに関わる人材の育 謎解きゲーム、塩化ビ
グループが主催する 成や仲間作りにつな ニールパイプを使った
「真庭若者文化祭」が げようと、高校生〜30 楽器作りのワークショ
20日、同市勝山の市立 代約20人で昨年6月に ップなどを展開する。
中央図書館で初めて開 発足した「真庭ユース フォトスポットの設置
かれる。ステージやゲ カウンシル実行委員 や、中高生が市内で運
チームなど多彩な催しを 営する子ども食堂「ま
用意し、来場を呼びか 会」が計画を進めてき ぁぶるkitchen
けている。 書道パフォーマンス n」によるカレーの提

みんなの「やってみたい」
を集めて実現できたイ
ベント。気軽に遊びに
来て」と話している。
午前11時〜午後6
時。入場無料。問い合
実行委メンバーの自 営業矢作俊平さん(25) わせは同委員会のイン
青木瑠音さん(21) 同 awakamonokai)。
市出身、東京は「み (中浜汐里)

山陽新聞 2025年3月19日
「やってみたい」大集合

図書館もっと楽しんで

勝山小 6年生 催し企画、業務体験も 真庭

真庭市本郷の勝山小 6年生36人が図書館を 運営するイベント「集 まれ!!中央図書館」が 15日、同市勝山の市立 中央図書館で開かれ、 館内ツアーや読み聞か せなど多彩な催しを繰 り広げ、来館者を楽し ませた。
探究的な学習の一端 で、同館の活用と本の 貸出数増を狙いに、カ ウンター業務からイベ



スタンプラリーへの参加を呼びかける児童たち

を探し回った。
飲食店から仕入れた 弁当の販売や熱々の 焼き芋と焼き餅の振

た。「一日図書館長」を 務めた吉田奏大さん (11)と森暖斗さん(11) は「普段通っている図 書館の仕事や役割がよ く分かった。大勢に喜 んでもらえてうれし い」と話した。
(小谷壺浩)

山陽新聞 2025年2月20日
図書館もっと楽しんで

2025.9.28(A)

提言 2025

私の勤務する真庭市立中央図書館には、市民から多様な企画が持ち込まれる。

2月、地元の小学6年生が探究学習の一環で図書館を一日まるごと運営してくれた。カウンター業務だけでなく読み聞かせや焼き芋などのイベントを班に分かれて活動。館内は子どもたちで大騒ぎ。3月、市内の若者支援NPOと協働し、若者文化祭を開催。バンド演奏から鉄道模型まで多彩な遊びでにぎわった。

6月、市民有志によるパレスナ映画の上映。深刻な現状にできることはないかと考える。7月、放課後等デイ

社会インフラとしての図書館

真庭市立中央図書館長 西川 正氏



にしかわ・ただし 1967年滋賀県生まれ。学童保育所、出版社、NPO支援センター等を経て、2009年に市民参画型のまちづくりに取り組むNPO法人「ズオン埼玉」を設立し、現在は副代表理事。元恵泉女学園大特任准教授。22年4月から真庭市立中央図書館長。著書に「あそびの生まれる場所」「お客様」時代の公共マネジメント」など。

市民に応える人的投資を

サービスに通う子どもたちが自ら育てたタマネギを使ったお祭り。8月、図書館前で盆踊り。途絶えていた盆踊りを3年前に若手市民が有志で復活。塗り絵になっているチラシをみんなで塗って町に張り出す。七輪で焼く食材やくじ引きの景品も参加者の持ち寄り。まちの人々による寸劇も披露され、手作りの温かいお祭りになった。

常設のプロジェクト「真庭校歌研究室」では、閉校になった小中学校の校歌について市民に呼びかけ、協力者に歌ってもらい、動画で記録し公開している。子ども頃の思い出を語る年配のみなさんの表情はとても豊かだ。

だ。図書館は「答え」(answer)のある場所と見られがちだが、人の学びやまちづくりに必要なのは「応え」(response)ではないかと。

「応え」(response)とは、市民の声を振り返って私たちが大事にしてきたことを、あえて一言でいうと、市民の声に「応え」(response)すること。さまざまな企画も「あやもまない」(うごかない)と一緒に考えるというアイデアが生まれている。しかも、もっと大事なことは、その「応え」(response)があること、結果が分からないことでも「やってみよう」という気持ちが生まれてくることだ。

「あやもまない」と一緒に考えるというアイデアが生まれている。しかも、もっと大事なことは、その「応え」(response)があること、結果が分からないことでも「やってみよう」という気持ちが生まれてくることだ。

AI(人工知能)の登場で、すでに持っている答えにたどり着くスピードは格段に速くなった。しかし、答えのない問いを、試行錯誤する楽しさは、誰かとの関係の中でしか生まれてこない。その楽しさの広がり、あたたかな出会いや活動を生む。出会いがあると、結果、このまま書こうと思ったと思う人が増える。若者がこのまちに残る、このまちに居るという選択肢につながる。

読書週間と図書館

ページをめくる喜び広めて

きよつから来月9日まで
「読書週間」。今年の標語は
「こころをあたまの、深呼吸。」
である。

目まぐるしい日常に一息つ
いて心を整えるために、また
新しい知識を頭に取り入れる
ために、私たちは本を開く。

さまざまな著者の多様な考え
方に触れることは、社会の分
断が懸念される中、より大切
だろう。

その案内役の一つと言える
のが公共図書館だ。岡山県内
にも約70館あり、展示やサー

地域から

ビスに工夫を凝らしている。

中でも、県立図書館（岡山
市北区）は昨年度の個人貸出
冊数が114万冊超と、全国
の都道府県立図書館の中で5
年連続1位となった。

豊富な蔵書と立地の良さに
加えて、利用者が知りたい内
容を相談し、職員が書籍を提
案する「レファレンスサービ
ス」が好評という。リピータ
ー獲得につながっているとみ
られる。

利用者の「知りたい」にど
う対応するか。図書館は近年、
まちづくりの拠点としても注
目されている。

「図書館は『答え』のある
場所と見られがちだが、人の

学びやまちづくりに必要なの

は「応え」なのではないか」。
本紙の「提言2025」でそ
う問いかけていたのは、真庭
市立中央図書館の西川正館長
である。

社説

や読み聞かせなど多彩な催し
の企画、運営まで担った。

市民が司書と一緒に資料を
探し調べることも、もちろん
行っている。答えが見つから
なくても、一緒に悩んでくれ
たという実感があれば、また
図書館に行つて相談してみよ
うと動機づけになるそうだ。

さらに「真庭校歌研究室」
というプロジェクトでは、閉
校を含め市内小中学校の校歌
を市民に呼びかけて歌っても
らい、動画で記録、公開して

いる。市の一体感を醸成する
取り組みが評価され、全国の
図書館による先進的な活動に
贈られる賞も昨年受けた。

そうした活動を通して、本

や資料に出会い、ページをめ
くる喜びを広めてもらいた
い。そのため、自治体には職
員や蔵書などを充実させるこ
とが求められる。

ITの発達で、知りたいこ
とにたどりつくスピードは速
くなった。だが、交流サイト
(SNS) などでは、自分の
考えに近い情報に囲まれる危
うさが指摘されている。IT
は今、欠かせないものの、情
報の偏りを防ぐためにも紙の
本を開く意義はなお大きい。

公共図書館に加えて、学校
図書館やそれを支える人材の
充実、街の書店の減少に歯止
めをかける振興策も政府、自
治体は進めてもらいたい。

2025.10.27

E2657 - 校歌で訪ねる地域の記憶

カレントアウェアネス-E

真庭市立図書館附属みんなの校歌研究室

真庭市立図書館は、岡山県北中部に位置する、中央館1館と地区館6館からなる図書館である。当館は、地域おこし協力隊との協働事業として「真庭市立図書館附属みんなの校歌研究室」（真庭校歌研究室）を2022年度に設立し、統廃合された小中学校を含む市内の小中学校の校歌についての情報を収集・整理・発信している。本稿ではこの取り組みについて紹介する。

●真庭校歌研究室の取り組み

1947年の学校教育法施行後に市内で閉・休校した小中学校は分校を含め49校。その統廃合の歴史及び各学校の校歌の作詞者、作曲者について整理するとともに、収集した情報を発信している。専用のウェブサイトを開設したほか、市報への掲載やマスコミなどの協力も得て、市民に情報提供を呼びかけるとともに、各地区館の司書が利用者や地域の情報に詳しい住民に協力を依頼している。

協力者が現れると地域おこし協力隊のメンバーと司書で面談し、いつ、どこの学校に通っていたか、子どもの頃や学校の思い出、校歌を覚えているかなど聞き取る。多くの場合、その場で歌ってもらえるので、動画で記録し、許諾を得て市立図書館公式YouTubeチャンネルで公開している。2023年夏から秋にかけて、市内全地区館を会場に協力者から話を聞き、2024年1月現在、24校34曲を公開している。

校歌についての情報は、2023年度内をめぐり中央館で集約・整理し、各地区館でも閲覧できるようにするための編集作業を進めている。2024年3月にはイベントを開催し、活動の成果をお披露する予定である。今後、地域サロン、地域行事、親戚の集まりなどで広く利用してもらいたいと考えている。

●「地域おこし」としてのアーカイブ事業の意義

1960年代、市内にバスが走るようになると、山間部の小中学校の統廃合が進んだ。当時の子どもたちも今は80～90歳台となり、統廃合前の学校の校歌を歌った世代は年々少なくなっている。そこで企画したのが、校歌を地域情報として収集・アーカイブし、発信する真庭校歌研究室のプロジェクトである。

収集を始めてみて、あらためて校歌には郷土の山河への愛着、歴史への誇りがつまっていることを知った。敗戦直後に若い教員によって作詞・作曲された校歌からは、児童が郷土の豊かな自然の中で、共に学んで仲良く新しい国を作っていってほしいという思いがうかがえるなど、子どもの今と未来の幸せを願う気持ちも込められていた。一方で、戦前・戦中の価値観が反映された校歌が戦後の教育で見直されて歌詞が一部変更されたり、省略して歌われてきたケースもあった。校歌は地域の歴史と出会う・歴史をひもとく扉となるものだと実感している。

校歌を口ずさみながら、時には、校歌についていた振り付けを思い出しその踊りを交えながらいきいきと話して下さる高齢のみなさんの表情を見ていると、あらためて校歌の「コミュニティソング」としての力を感じる。収集活動は同時に地域おこし、つまり地域住民のエンパワーメントとなっているのではないだろうか。必ずと言って良いほど、校歌についての話題は、いつしか思い出話に変わる。「宿直の先生の部屋があって、よく遊びにいった」、「木造の小学校の廊下に番傘（置き傘）を置いていた」、「冬になると、みんなが登校する30分前に来て、石炭ストーブを準備しておく当番があった」など、半世紀以上前の山の中の子どものたちの日常に出会うことができる。「中学校でかわいい子がいてね」と照れながら話す高齢の男性の表情は、中学生のそれだったりする。同級生同士で集まって校歌を歌い、「あの頃」の話で盛り上がる。きっとあの頃と変わらない笑顔がはじけている。

こうした収集にまつわる楽しい時間と思い出も含めて、未来の真庭の人々へのアーカイブ（贈り物）としていけたらと願っている。

Ref: 真庭校歌研究室 . <https://maniwashoolsong.editorx.io/maniwa>

“まにわとしょかんチャンネル”. YouTube. <https://www.youtube.com/channel/UCeN0aZV3ZgpzrauuKlZYaw>

“真庭市立図書館附属みんなの校歌研究室（真庭校歌研究室・MKK）”. YouTube.

https://www.youtube.com/playlist?list=PLo_gsbwptO4sq2j160hnTtHl0Lk_9Hdib

第2次真庭市図書館みらい計画

(真庭市図書館基本計画・子ども読書活動)

2026年3月

編集：真庭市教育委員会 図書館振興室

発行：真庭市教育委員会

真庭市立中央図書館

〒717-0013 岡山県真庭市勝山 53-1

電話：0867-44-2012 ファクス：0867-44-2020